

西遊記

早稲田大学図書館
文書 27
A 126



(董 几) 頭工木るたけか子帽烏や月正

寒 暖	天 氣	日 二 月 一	丙 辰	木 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

一月

順天大禮殿拜嘆
 午前十時参内表衆為祝儀参到之
 拜定午餐と吃し
 青山所皇太子妃参嘆
 可卿と村、山、二位公及憲歌御に参嘆
 奉旨お礼祝儀

四

(年八卅) 許勅伏降順旅

(勃 王) 妍雪帶花梅裏雪。翠春銜葉柳前春

寒 暖	天 氣	日 三 月 一	丁 巳	金 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

一月

元始祭

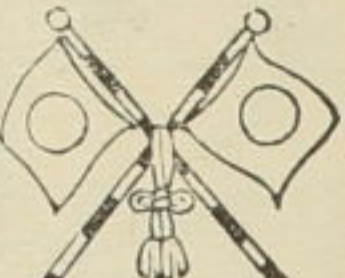
明主の御宇に於ては
 功運萬分の由り長政を祝儀
 妙子遊子若夫御子
 於於大八我木上の
 御且飲新身美
 可意の時運事と
 出表御神

五

(年八卅) 寸領受を臺砲各順旅

(山 湖) 間酌淺吟微在春。閑堂草去客年拜

寒 暖	天 氣	日 五 月 一	己 未	曜 日
信 發				
信 受				
要 摘				



 新年
 會
 家) 森 貴 族 院 出 頭 寄 書 之 賜
 小 川 守 之 揚 子 大 飛 之 守 之 公 之 氣
 三 浦 如 八 十 三 之 守 之 氣 強 自 年 過 祝 於 之
 如 乎

一
月

七

(來 去) 松の門したしにもめたの雪月

寒 暖	天 氣	日 四 月 一	戊 午	土 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

一
月

六

(年八卅) 了結領受塞要順旅

(外竹) 才斷是瓊坡尺徑。響然鏗網舉人漁

寒 暖	天 氣	日 七 月 一	辛 酉	火 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

天降飛雪
七種菜餅先去作打勝鳥美時
急
書之
大城物子風神考起六次
湖
山子
身後美!

一
月

九

(年八卅) く置を府守鎮に口順旅

(蕉芭) りよた初の勢伊やばか聞に萊蓬

寒 暖	天 氣	日 六 月 一	庚 申	月 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

一
月

八

(年八卅) 才没沈艦旗の隊艦クツチルバ

(更 蘭) し古人ばれぐす日三も月止

寒 暖	天 氣	日 八 月 一	壬 戌	水 曜
信 發				一 月
信 受				
要 摘				

Handwritten text in the main column:
 午は時辛方大磯村集市と點燈
 去磯梅子漬婦等々風外
 友人並歌仙如入初宮

一月

10

(種 元) 波漫湧頭湖送江。雪殘消色水添湖

寒 暖	天 氣	日 九 月 一	癸 亥	木 曜
信 發				一 月
信 受				
要 摘				

Handwritten text in the main column:
 隔早起酒造類多海と山と
 新祥之海集七等内命
 奈株午七言と更

一月

11

(年 元) ふ給せか即に位御下陸皇天上今

(所 適) 雪是半泥香籃滿。芹溪摘童村倩欲

一 月	寒 暖	天 氣	日 一 十 月 一	乙 丑	土 曜
	信 發				
	信 受				
	要 摘				

多柳松摩うやふ

晴九次節、布、茶葉、供、買、之、身、也

(年八卅) く授を章勳にルセツテス及將大木乃帝逸獨

(蕉 芭) ながも友人か行に都てと日の子

一 月	寒 暖	天 氣	日 十 月 一	甲 子	金 曜
	信 發				
	信 受				
	要 摘				

風常、静し、昨、比、手、思、暖、也

(年九卅) 表發約協屬附及約條清日るす關に洲滿

(揮 許) 來水昏消雪蜀巴。出山暮盡雲潭湘

寒 暖	天 氣	日三十月一	丁 卯	月 曜
信 發				物子起頭床拂
信 受				
要 摘				

一月

一五

(年八卅) ず設創を島艇水潜に軍我

(巳 推) 哉夜雨るたいつの寂に月正

寒 暖	天 氣	日二十月一	丙 寅	曜 日
信 發				五 山 持 得 打 汗
信 受				
要 摘				

一月

一四

(渾 許) 風還夢浪吹犹江。雨亦晴雲拂燕石

寒 暖	天 氣	日 五 十 月 一	己 巳	水 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

一
月

一七

初雪降来片し飛星陽氣祥雲

(美 成) 哉ひ笑む込れば翻手に鍋汁

寒 暖	天 氣	日 四 十 月 一	戊 辰	火 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

一
月

一六

子持之年元梅子酒子盛

(年八卅) す着に邦我下以ルセツテス將降 (年九卅) 旋凱將大木乃

(繪 廬) 枝無半樹松壇古。字有徵幢石洞陰

寒 暖	天 氣	日 九 十 月 一	癸 酉	日 曜
信 發	大城より梅子二がき馬の小包到着なり			
信 受				
要 摘				

一
月

二
一

(臺 曉) 哉紋衣ふらばじ履雪の春

寒 暖	天 氣	日 八 十 月 一	壬 申	土 曜
信 發	晩餐く長衣及 三物を扱き大城 此の梅子 兄弟溜初 此の梅子 供す 歡待此の梅子			
信 受				
要 摘				

一
月

一
一〇

(期陰沈) 梅是併花争裏殿。蕙生纔草竟中林

寒 暖	天 氣	日三十二月一	丁 丑	木 曜
信發	<p>九時貴族院出頭 國友林野法業身更議長指名錫智山草</p>			
七時				
信受				
要摘				

一月

二五

(中 湖) なか柳るまわきは文に墨薄

寒 暖	天 氣	日二十二月一	丙 子	水 曜
信發				
八時				
信受				
要摘				

一月

二四

(天樂白) 開初襟口花薰暖。得未收腰柳縹寒

寒 暖	天 氣	日五十二月一	己 卯	土 曜
信 發	<p>晴天 天神を拜す 文能太平海老子の未因能 榊山伯備前長船長花之乃天八 巻物に返礼す</p>			
信 受				
要 摘				

一月

二七

(齋 長) 月の宵るれま鳥黄ぞ子の誰

寒 暖	天 氣	日四十二月一	戊 寅	金 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

一月

二六

(偃 韓) 唇香綻笑含梅雪。臉利藏眠半柳煙

寒 暖	天 氣	日七十二月一	辛 巳	月 曜
信 發	貴族院 要旨			
信 受				
要 摘				

一月

二九

(艾 尺) なか雨小ゝるかに麗奇の鳥黄

寒 暖	天 氣	日六十二月一	庚 辰	曜 日
信 發				
信 受				
要 摘				

一月

二八

(鄂 李) 煙井萬和融色曉。柳門千映掩風春

寒 暖	天 氣	日九十二月一	癸 未	水 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

老四子齋

貴族陳述頭

一月

三十一

(雄 雪) なか榮若しみ摘の男にちか雪

寒 暖	天 氣	日八十二月一	壬 午	火 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

在止息以久業来
 種之根七人
 車供糸部教年厚分并了年令計報者
 目咳多種天行古布心威韓國地野し
 歡の迎居と為す得國七創述一徳力才道園
 秘之威下守る付かて五石京火足道道并
 京幸我次道高柳り本身友二言記萬因七
 可傳云て都築大庄海身り也於五出後

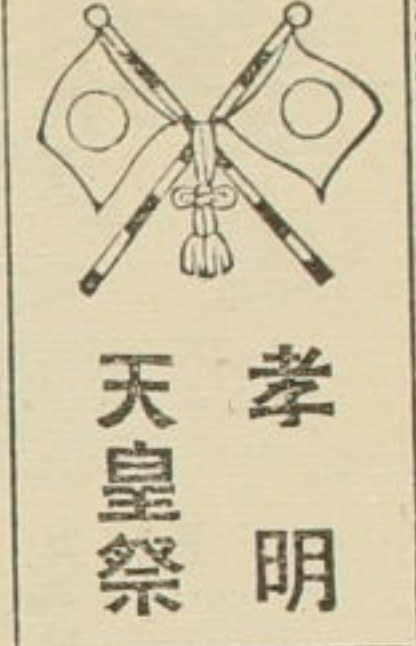
一月

三〇

(丸江大) なに燧火る居てし話の鳥山

(源巨楊) 來色風晴花陌紫。動光塵暖日門青

寒 暖	天 氣	日 十 三 月 一	甲 申	木 曜
信 發				
信 受				
要 摘				



孝 明
天 皇 祭

胡 柘 摩 子 等 以 頭 部 打 計 有 名 新 神 七 愿

一 月

三 二

寒 暖	天 氣	日 一 十 三 月 一	乙 酉	金 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

土前九古夫族院出頭年長分國有林野法業
 命激可更年長湯島新類告
 系家初別其外三行原法業實附祀
 以去案の廿三年山縣西州子物野自治
 体リ作以以情江木千之之格案有
 今ハ一不七世徳為の主任小松原家者有
 小書盡力あり

月

三 三

(浴 鮑) 花眠醉客携林芳。月帶歸僧訪寺野

土曜 丙戌 二月一日 天氣 寒暖

二月

信 發

信 受

要 摘

三五

芳子林病院 阿松為院 者初行 芳子林病院 阿松為院 者初行

(年九卅) 廳開府監統

立陰 春月正曆 二月 雨 (節の 中月正同) 水

二月

三四

年中行事

十一日の紀元節は、神武天皇御即位紀念の佳辰なり、陰曆にては正月朔日なりしを、陽曆によりて此日に改めらる。○此月初の午の日を初午とて、諸所の稻荷の神を祭る、今年は九日なれば廿一日の二の午なり○立春(此月の上旬)より初めて春となる、梅花漸やく東風に綻ぶべし○五日諸寺にて釋迦涅槃會を行ふ

節物時令

節分○立春○初春○梅○白梅○紅梅○探海○看梅○春の雪○淡雪○雪解○殘雪○春風○東風○餘寒○初午○紙鳶○初霞○月梅○椿○鶯○初音○白魚○海苔○紀元節○下萌○初雷○青麥○早わらび○堇花○つば堇○根芹

食品月令

鯨○ほしかれひ○いか○春菊○土筆○路のとう○鶯菜○其他の食品多く一月に同じ

○二月中行事豫記

寒 暖	天 氣	日 四 月 二	己 丑	火 曜
信 發	有 柴 好 夜 食 海 宅 寒 美 飯 等	香 羽 知 念 入 湯 久 一 流 有 知 曉	三 時 退 出 冬 山 難 多 好 假 多 若 路 好	取 寄 好 一 其 好 大 奇 麗 好 可 好
信 受	代 子 好 好 好 好			
要 摘				

(年七卅) 才厘を境緯萬二約兵露の陽遼

寒 暖	天 氣	日 五 月 二	庚 寅	水 曜
信 發	八 代 子 未 起			
信 受				
要 摘				

胡山田梅好等
集議院解算其道
后。信使多其厚初氣不亦電話好

晚天春日和會湯入法
銀河清好夜食海宅寒美飯等

(雪 嵐) さかゝたあのみづ輪一輪一梅

木曜

辛卯

二 月 六 日

天氣

寒 暖

二月 四〇

相違とも子息先大元氣珍校
午後十時林初院より女子七時河内口
逆光の目出後、
午後四時築地影と在る三時和馬懸親會を
備へ三時不致我不自身長引、松平三宅
右美濃大平馬屋原果山多秋、粟本千代
鮮香、津原海河、

信 發

金 養 田

信 受

和馬月分分致、
年八卅

要 摘

(年八卅) る上に途征び再將大郷東

(鶴 荷 杜) 清波酒綻海家幾。綠影溪消雪嶂千

金曜

壬辰

二 月 七 日

天氣

寒 暖

二月 四一

信 發

金 養 田

信 受

和馬月分分致、
年八卅

要 摘

午前四時目元親會、其時、和馬懸親會、
大八郎、行、由、徳、寺、出、老、神、之、巻、如、
二、軒、取、引、也、
長政、子、内、為、之、屋、田、之、濱、濱、し、身、大、元、
對、白、原、い、う、地、幸、持、ふ、以、村、と、助、贈、
宅、と、り、重、津、入、湯、

(年八卅) 廳開府守鎮口順旅

(茶 一) 雪る残にれ逃寸一やしま淺

寒 暖	天 氣	日 八 月 二	癸 巳	土 曜
信 發	<p>九の成院 酒視六行監探地六行松田五花司出打臣 後明あ、滋長各各助附。谷多町助及基 干那長均中具之神集厚都制湯果内容 様平正道大活神集厚江木平之内湯神 三浦あ聲古様平及神片建法行平是 事而有公使不有藏相談判 切方あ助付湯果具、玉名大八湯果 如念湯一述、信發者、 七十五、八、十、</p>			
信 受				
要 摘				

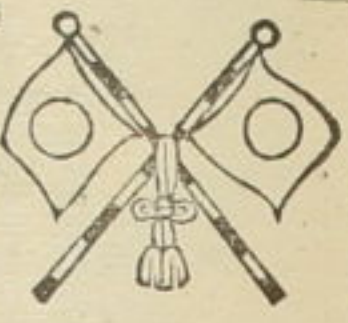
(年七卅) 寸沈撃に順旅を隻三艦官長令司郷東

(遠致雀) 中林倒影花移日。上座喧聲驚遞風

寒 暖	天 氣	日 九 月 二	甲 午	日 曜
信 發	<p>萬事通言目尻不お何時時計せり 富子山之詩を揮毫、片年、 卯毫</p>			
信 受				
要 摘				

(山 枕) 區中定賊巨誅旋。艦軸駐波難向遠


二月

寒 暖	天 氣	日一十月二	丙 申	火 曜
信 發				
<p>  紀元節 九時下私服着用、内省考、頭神武奉祀 貴族院、生頭、祝酒、頂戴、一同写真 湯山、高帽、ソツ、着用、伊藤、公爵 大井村、新、恩賜、赤坂、離宮、一新、祝 憲法、資、布、二、年、一、祝 酒、飲、儀、者、歸、祝 皇、元、祝、儀、者、歸、祝 </p>				
信 受				
要 摘				

四五

(虬 蒼) 梅の路野りけりな表がる見の人

二月

寒 暖	天 氣	日一十月二	乙 未	月 曜
信 發				
<p>  春日 </p>				
信 受				
要 摘				

四四

(年七卅) 發煥詔大の戰宣露証

(草丈) 松馴磯すらさにほしうや苔海青

水曜 丁酉 二月二十日 天氣 寒暖

晴寒三十夜
 貴族院會議上頭讀令年表
 清願進賢令多長出帝
 租稅所改不存水費免稅併標
 元有社う國憲編纂附録二部
 成知也来
 秋風月堂會書、手由芝源館、到り入
 未探勢

信發

信受

要摘

二月

四六

(年七卅) 寸置設に中宮を營本大

(堂拙) 人顧三流風是誰。客花看香雜園滿

木曜 戊戌 二月三十日 天氣 寒暖

晴、二十九日
 多制九代幸保平都、以、急、向、帝、詔
 大花省、う、治、官、水、所、租、稅、向、長、標、并、考
 出帝、豫、旨、并、并、博、總、案、に、誤、り、標、
 向、せ、り、
 然、三、院、に、補、後
 今、身、淺、身、奴、后、の、勢、を、令、り、う

信發

信受

要摘

二月

四七

(更 蘭) けらほ朝きなとこふ思や香が梅

(卿上陳) 芳岩兩開爭李桃。色春三泛晴瀾波

金曜

己亥

二月十四日

天氣

寒暖

二月

信發

信受

要摘

日先不... 天氣... 岩丹... 晴

年... 國... 并... 録... 一... 侍... 未... 話

(年七卅) 寸行執を祭告奉戰宣に廟大勢伊

四八

土曜

庚子

二月十五日

天氣

寒暖

二月

信發

信受

要摘

晴... 貴... 龍... 院... 出... 頭... 中... 具... 俱... 東... 内... 大... 花... 龍... 祖... 德... 意... 揚... 井... 治... 務... 儀... 酒... 石... 油... 粉... 糖... 祝... 三... 大... 飯... 揚... 西... 内... 山... 野... 町... 贈... 可... 何... 代... 子... 田... 伴... 神... 老... 紅... 糸... 菊... 好... 一... 禮... 一... 七... 櫻... 大... 母... 海... 道... 通... み... 之... 千... 杯... 也... 飲... 心

七五少

四九

(然 惟) 哉さ寒の野須那だまいも萌下

寒 天 日 辛
暖 氣 六 十 月 二 丑



二月 五〇

信 發
信 受
要 摘
木原柳野村... 四時能三... 時電車... 八代... 湯島天神前... 新... 園... 復氣

(年九廿) す待招を下以官令司各村川木乃奥帥元津野に園公谷比日

(山 拜) 來信傳花梅有頼 在何春語無坤乾

寒 天 日 壬
暖 氣 七 十 月 二 寅

二月 五一

信 發
信 受
要 摘
天... 祖... 長... 壬寅

(年八廿) す領占を衛海威隊艦我

(翁放陸) 香水春溪一落花。綠山暮疊千餘雨

寒 暖	天 氣	日九十月二	甲 辰	水 曜
信發				
信受				
要摘				

所
 傳
 多
 事
 長
 中
 三
 子
 四
 子
 生

二
月

五三

(年九卅) ろらせ京上に直港入御に濱横下殿トーノンコ族皇國英

(瀧 丁) くゆてけ跟を人盗花の々蝶

寒 暖	天 氣	日八十月二	癸 卯	火 曜
信發				
信受				
要摘				

午
 收
 不
 系
 奇
 七
 子
 漢
 所

一
 月
 古
 知
 奇
 七
 辭
 し
 小
 リ
 キ
 フ
 ニ
 ン
 知
 列
 学
 族

晴
 子
 花
 月
 二
 事
 為
 信
 揚
 多
 事
 年
 年

二
月

五二

(年六卅) 去薨下殿王親仁彰宮松小

(堂 椿) きばつ赤もに畑もに田やたからお

寒 暖	天 氣	日 十 二 月 二	乙 巳	木 曜
信 發	<p>出院三十八日法律第七号中の正位律案 手長長箱板天祥刻多長長自ら校選 専賣向長濱口天花より身法儀同 并製博程河野滋あり深詮 身法草河車村然在り身角字 之約名法儀原保六中入集以法 利に國免倫美房録手快い於脱 岩層が心もしうし法相存致</p>			
信 受				
要 摘				

二 月

五 四

(年九卅) ろらせは行式呈捧章勳-ヌ-ガの進贈我に下陸我りよ帝皇英

(蘭 紅) 寒水池々晶日午。欄憑起夢喚鶯流

寒 暖	天 氣	日 一 十 二 月 二	丙 午	金 曜
信 發	<p>晴 大族院身号議序</p>			
信 受				
要 摘				

二 月

五 五

(年一卅) す贈追を位一正に麗清氣和

老田七少

國民の権限を以て自らも困窮を嘗みず

(毛如) 親の入りけし辰に巢を子雀

土曜 丁未 二月二十二日 天氣 寒暖

昨夜半食相... 早起三十... 心平不穩... 九時出院... 親の入りけし辰に巢を子雀

(年九卅) 開を議會官方地に室議會省務内

(礪女彭) 州皇滿色春知遙。氷碧流漸氷見巳

戊申 二月二十三日 天氣 寒暖

保科忠... 七... 玉子木... 徳川議長... 地方官... 議院... 議院... 議院... 議院...

(年七卅) る成約條盟同韓日

二米... 本

信發 要摘

(楓 如) 村一月光寒影素。雪如花樹千梅野

寒 暖	天 氣	日五十二月二	庚 戌	火 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

湖山田邊... 吳... 天... 玉子...

二
月

五九

(丸 素) なか雀雲きな上いのもるな閑長

寒 暖	天 氣	日四十二月二	己 酉	月 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

和親科... 徳... 代...

二
月

五八

(年七卅) す行決を塞閉回一第口順旅

(亭 癸) りけりた出にひろひ色景の野の春

金曜

癸丑

二月二十八日

寒暖 晴 天氣

二月

相若目先雨重なる道

才前美族院本厚激出節

才前美退之約の金道山中に多お徳子あつたを

乃胡批餅を徒を好

不難三尾を好甲更

信 發

信 受

要 摘

六一

土曜

甲寅

二月二十九日

寒暖 天氣

二月

陽寒飛雪大城行と止む

信 發

信 受

要 摘

六三

(崖秋方) 眠肯未流風白柳。識相如藉溫能春

寒暖	天氣	日三二月三	丙辰	月曜
信發				
信受				
要摘				

祖旭名七思寸天氣漸晴
 大城天子伊藤公インゾルチ去月紀元帝好也
 此のく相代成九七ノ北海海歩の記云々
 復々さうふお船運動いたし三計り休巻はし
 好まきいし青柳相復有標且打針
 伊藤公の
 海上不獲何れ
 海の上不獲何れ

三月

六六

(村 蕪) ちが家小やるすとちこちあの鶯

寒暖	天氣	日三三月三	丁巳	火曜
信發				
信受				
要摘				

此乃海上暗黒天氣雨ノ雪ノ
 午故持山伯ノ訪海軍上將 長川崎三郎
 為人征戰ノ頃ニ編纂セリノ税竹舟習ヲ鹿野山
 伊藤公ノ玉意起ニ保海軍上將ニ也
 六師團一躍海加監部ニ正此揚税ヲ馬ノ北河
 梅子安眠セリ五分十分忽ち目覚
 タフト帯不ラシ酒説徳公刊板
 針香柳相復有

三月

六七

(謙許) 暹來月戸窓間竹。早到春亭樓裏花

寒 暖	天 氣	日 六 月 三	庚 申	金 曜
信 發	湯川志下集海より東に於て話し置 山下に在る來以路へ一歩も十餘の里程あり 田舎			
信 受				
要 摘				

三月

(吉保) なか夕の春きさく土てい鳴螺田

寒 暖	天 氣	日 七 月 三	辛 酉	土 曜
信 發	越前之氣脈なり雨降りあり 朝身振るるるなり一白の雲あり 午飯後九切あり 大八三井治行あり 井田南のり五午のり 次第に井田の油屋あり 大八執筆家計を報告 大八執筆家計を報告 大八執筆家計を報告			
信 受				
要 摘				

三月

(村 燕) なか燕くゆしほこ糞に繪津大

寒 暖	天 氣	日 一 十 月 三	乙 丑	水 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

三月 七五

貴麻院 湯物 本 寺 之 信 會 之 出 席
表 示 所 年 終 矣

(年 九) るむ改に曜日て以を暇休の日六一

(銚 郭) 安平竹靜晝珎琅。貴富花明看繡錦

寒 暖	天 氣	日 十 月 三	甲 子	火 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

三月 七四

雪解 本 流 板 瓦 藻 草 不 通
大 族 院 有 所 議

(年八卅) す領占を天奉軍我

(名 失) 言無喚婢小花隔。硯筆求成詩後醒

寒 暖	天 氣	日 二 十 月 三	丙 寅	木 曜
信 發				
信 受				
受 摘				

三月

七六

山田信子之味打汁
祝三太郎の言葉物来りて次太郎の床

(年九卅) す行擧を式水進て於に所船造崎川雨時艦逐驅

(山 來) 草の春る捨はてつしむはてつしむ

寒 暖	天 氣	日 三 十 月 三	丁 卯	金 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

三月

七七

晴漸暖知
大旗院本所儀九時出席
談子散會後衆侶中評集會競馬悪風
地方税相理の儀。松平正直に
長江村の梅の影
十段高節林初院睡と習察を修之記

老田

(名 失) 中答問蜃鳩是仍。雨耶晴判未陰輕

土曜 戊辰 三月十四日 天氣 寒暖

三月
可也胡旭老老村。於成風子
山下深太。是男子生遊之。於伏十日。古
田之身來。一讀之。龍持。小
山。原。過。村。り。甚。計。子。産。以。病。氣。云。
予。聖。之。教。あり。屍。體。の。前。跡。の。古。跡。也。
長。政。の。法。柱。榎。あり。杭。三。所。大。坂。の。
保。神。貞。二。天。坂。り。大。中。留。着。の。古。跡。也。
家。美。心。軒。友。子。屋。出。荷。者。の。古。跡。也。
午。飯。二。時。者。十分。目。老。執。筆。
秋。若。一。来。向。頭。本。箱。大。元。裏。裏。系。の。古。跡。
分。頃。二。七。日。也。○。此。之。風。邪。解。散。の。古。跡。

三月

七八

(誰 河) きろしもおも鍋手や頃むるぬ水

日曜 己巳 三月十五日 天氣 寒暖

三月
信 發
信 受
要 摘
早。起。又。花。の。古。跡。也。於。是。月。少。古。跡。也。
来。文。花。の。古。跡。也。於。是。月。少。古。跡。也。
○。衣。托。の。古。跡。也。可。可。可。悦。
大。八。小。田。原。過。村。の。古。跡。也。
大。八。大。機。を。訪。尋。一。泊。
午。坂。の。源。次。を。子。建。徳。井。戸。の。古。跡。也。見。花。の。
盛。り。の。古。跡。也。梅。子。の。古。跡。也。初。者。の。古。跡。也。
の。古。跡。也。良。
田。免。少。事。初。功。田。の。古。跡。

三月

七九

(外 竹) 開櫻晚謝半櫻早。裏雨微陰輕日十

三月

八〇

寒 天 日 庚 月
暖 氣 六 十 三 午 曜

信 發

長江入集

信 受

任三良元氣部以考

要 摘

好時穩初の六考並
貞亮又昔は熱
花女神たより来ん言形即空のり来り原直致
う百の田原は村葬式大八分兼打自毫
このふ牌きりよ一、方子蔵小信
山下良おれん、来り海井戸の村の流為表初
持来母子と七肥多作り徳子兼此、日自切り
上京忠善神島より上京耕地おる現新め長きは
鉄道開通初の望あり

(外 天) 影の月やるなにつ一とこだ飯

三月

八一

寒 天 日 辛 火
暖 氣 七 十 三 未 曜

信 發

平萬圓位、此女

信

要 摘

四時半日考、五時五十分巡電車
夫族院存全、議年之兼、保永部、勢、税
製、理、屋、淺、施、馬、之、浅、あり
女中、の、う、あ、り、娘、花、女、子、吃、喝、り、来
大八田宅大蔵二泊、十五、十六、日、申、候、事

船越江太考、つへ、地方、税、整理

(石 千) 天月夜臺樓浸水。地風春柳花園山

寒 暖	天 氣	日 十 二 月 三	甲 戌	金 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

三月
八四

昨日原油之建議之演升神神可過眠
 午後一時原油之信大盛招之日比水三升集房
 所之國游房亦有雨州內諸有信信有之役
 人貴氣者既介時人列其房擬在洋會新之
 船海雲急の浪波中 此為大雨天

(年十四) 寸館洲會覽博業勸京東

(代 千) く行く青も水やてれぬに雨春

寒 暖	天 氣	日 一 十 二 月 三	乙 亥	土 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

三月
八五

本日見聞之
 根本道場不可無本ノ事業基金取
 國之善財者野娘也
 子乃未母子皇子貞亮大威所
 貞亮と孝二人孝柱式職休中為一歳

(年八卅) 領占府圖昌

(譜 星) る見て撫を芽若の蘭に虹初

寒 暖	天 氣	日三十二月三	丁 丑	月 曜
信 發	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">大族院分厚儀</p>			
七十九				
信 受				
要 摘				

三月

八七

(濤 春) 風春是頼聊無最。柳入吹花桃入吹

寒 暖	天 氣	日二十二月三	丙 子	曜 日
信 發	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">七十九</p>			
信 受				
要 摘				

三月

八六

(仁守鄭) 川一錦風東日暖。樹千霞晝春花桃

寒 暖	天 氣	日四十二月三	戊 寅	火 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

三
月

八
八

(草 丈) 蒔芹田るげにの鱧泥と事が我

寒 暖	天 氣	日五十二月三	己 卯	水 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

三
月

八
九

(年十三) るらせ布發を律法正改例條紙聞新

考田果

金身日
花月宜原料

後今退教後所花月梅と老和局子
今十七人計

貞元大機
拜天神

(松 寥) 筆土を物しまらあに野の秋

寒 暖	天 氣	日七十二月三	辛 巳	金 曜
信 發	<p>五時目覺り急起坐時 十時宛宛式送理大臣復初 殿費千四送書多法 工石く常回土志心 以理大臣國 以實今下然七輝總之議 未列しめり友し 山中米多長流き 菜一七傳以上及 菜一七送たに成 存校重菜七 肉く存多林多坊木</p>			
信 受				
要 摘				

(年七卅) 才死戰夫武瀨廣佐中軍海

三
月

九一

(陽 山) 兒蝶捉邊花菜野。睡翁從肯不孫童

寒 暖	天 氣	日六十二月三	庚 辰	木 曜
信 發	<p>山中菜多菜一七連 九午以存此 後の菜分榮旅金儲 後飯費 菜一七送たに成 存校重菜七 肉く存多林多坊木</p>			
信 受				
要 摘				

(年十三) るらせ布發法幣貨

三
月

九〇

(基 楊) 歌嬌當轉百驚風。舞妙供條萬柳煙

寒 暖	天 氣	日 四 月 四	己 丑	土 曜
信 發	四月 昨初驟驟呼吸きく随証熱者如松の吹 暖氣流り微冷之心如雨を催す 歌の音柳川の空三月の春の枝鳥の 為七日晴の天の交遊の平の四の舞の 有場のまき不事実の可憐 夕の白雲の教下山宮下徳島野下 行路は長き程 梅子の呼漢後且打針			
信 受				
要 摘				

(年九卅) 行執祭人の公宗時條北位一從贈て於に寺覺圓倉藏

四月

100

(帆 里) 持扶人五るたて捨に花やる入ひ思

寒 暖	天 氣	日 五 月 四	庚 寅	日 曜
信 發	四月 於者の目克風唐冷天氣亦太如 大竹一沙の繁 持舞の前の身探且打針 三四入法天候の長可惡徒屋水大 増し空のまをきり見 和合のまをきり見 伊保松路の長可惡徒屋水大 山崎のまをきり見			
信 受				
要 摘				

(年六永文) ふまたし戒受に寺東皇天岷嵯後

四月

101

むりし
の佛
の佛
の佛

(參 岑) 乾未露旗旌拂柳。落初星佩劍迎花

水曜 癸巳 四月 四日 天氣 寒暖

四月
信發
信受
要摘

天氣佳和神楽。大城の梅子。梅子の花は
年前有梅の着官の不出年。吊問。是上
初を。建。成。性。多。の。行。百。豊。多。の。同。上。養
送。の。長。政。來。の。梅。の。あり。美
馬。の。面。昨。の。来。り。下。雪。の。収。竹。推。了。示。す
有。木。竹。の。長。足。早。浦。入。流
大。八。大。城。の。梅。子。几。毎。行。の。影。道。後。亦。修
熱。の。年。の。後。不。収。七。の。梅。事。の。時。年。田。宅
大雪。の。如。也

(年元祿長) く築を城戸江灌道田太

四月

104

(蕉 芭) 櫻重八藍伽堂七重七良奈

木曜 甲午 四月 四日 天氣 寒暖

四月
信發
信受
要摘

此時重車は道
大智の治。其。身。の。為。の。事。也。
了。子。若。の。影。の。梅。の。花。の。体。
前庭後園。積。雪。數。尺。一。夕。大。減。の。後。臨。之
山。の。葉。作。り
大。の。師。の。存。の。半。大。減。の。着。梅。子。の。七。重
九。度。以。之。熱。列。の。日。の。下。の。お。の。の。の。の。の。
代。の。下。の。梅。の。交。大。八。の。梅。の。及。梅。の。九。交
似。六。の。梅。の。

四月

105

(昭彦趙) 新條萬柳弱軒垂。發樹千花濃路夾

寒 天 日 丁
暖 氣 二 十 月 四 酉



信 發

信 受

要 摘

午後四時草刈結束之増記
此報より長政下條より
他入澤之場
老松葉科中深堀内等

(年元正天) 寸 卒 玄 信 田 武

四 月

一〇八

(彦道) なか扇ろけ初しざかに雁く行

寒 天 日 戊 月
暖 氣 三 十 月 四 戌 曜

四 月

信 發

信 受

要 摘

長政祖先の
お家より被
記す
此の
御親東

一〇九

(丸 恒) 魚松初やるしは下の明有

寒 暖	天 氣	日 五 十 月 四	庚 子	水 曜
信 發	長 政 集			
信 受				
要 摘				

午後廣尾ニ出地對面其ノ伊知祖德
 之由元父自書ニ于年我少提
 子婦西成上村方ニ至伊知祖
 他數百ノ二田力壯然甲ニ也

四
月

一一一

(處 碧) 英雲紫遍開風野。色一花田春里十

寒 暖	天 氣	日 四 十 月 四	己 亥	火 曜
信 發	信 受 要 摘			
信 受				
要 摘				

信
受
 要
摘

四
月

一一〇

信
受
 要
摘

(年 八) く置を院二の審大老元

(宿 瀧) 遊勝接花鷲戸萬。句佳傳馬車衝千

寒 天 日 乙 月
暖 氣 十 二 月 巳 曜

信 發

表 装 紙

信 受

五 圓 十 五 錢

要 摘

如晴多事分妻夫列在庭前
待甲階迄可人
午前假寐
存留の事ありて此の紙を挿む
松書師の筆の挿む本は
木抄

四 月

一 一 六

(臺 曉) 哉めがなの吹山重八に汁芋

寒 天 日 丙 火
暖 氣 一 十 二 月 午 曜

信 發

好雨(福)の流し庭前二株の
真盛り有り
好雨の流し庭前二株の
挿む本は
木抄
汁芋
一葉米十月子
策友院創立
議生お阿吹
日記を
用す

信 受

要 摘

四 月

一 一 七

(村 燕) わりなと實櫻のべ夕ばれ見て來

寒 暖	天 氣	日五十二月四	庚 戌	土 曜
信 發	如所願 宿所到 八首 櫻社 天神 之 實 櫻 乃 供 奉 可市 掛 拍 踏 丙 午 六 十九 一 廿 華 實 都 三 十 年 訪 々 南 風 波 不 高 可市 三 島 丸 進 敬 司 公 年 卯 大 八 分 近 江 郡 中 須 賀 町 五 知 々 教 寺 西 院 收			
信 受				
要 摘				

四 月

一三二

(句 宋) 多須不色春人惱。點一紅中叢綠萬

寒 暖	天 氣	日四十二月四	己 酉	金 曜
信 發	如所願 宿所到 八首 櫻社 天神 之 實 櫻 乃 供 奉 可市 掛 拍 踏 丙 午 六 十九 一 廿 華 實 都 三 十 年 訪 々 南 風 波 不 高 可市 三 島 丸 進 敬 司 公 年 卯 大 八 分 近 江 郡 中 須 賀 町 五 知 々 教 寺 西 院 收			
信 受				
要 摘				

四 月

一三〇

(年八廿) る來し告勸を附還東遼國三の佛獨露

(風 杉) ら野の春や光の嶽るぐありふ

(基 楊) 啼鶯學慧多能鳥。過蝶衝忙底有花

寒 暖	天 氣	日七十二月四	壬 子	月 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

四月
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十

四月
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十

(年九卅) 寸朝來下殿官令司總軍陸子皇四第王國羅暹

寒 暖	天 氣	日六十二月四	辛 亥	月 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

四月
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十

一三三

一三三

(句 唐) 深春青燕乳鳩鳴。靜日白絲遊花落

日八十二月四

癸丑 火曜

寒 天
暖 氣

四月

信 發
信 受
要 摘
薄暮
時來凡の如波如解物と多ふ九怪
謝子あし
主創佳舞身初深の氣暖くあふに
賜の部あ
足指のあふの道き
大八種坊のあふ舞ふあ

(年一廿) く置を院密樞てめ始

一二四

(堂 素) んらた過情風蓮の此葉浮葉捲

日九十二月四

甲寅 水曜

寒 天
暖 氣

四月

信 發
信 受
要 摘
昨夜冷氣とあふの
梅の昨在熱と氣の
干の梅山山飛水一梅のあふ
不立の梅のあふ
死去まの梅のあふ
時白川玉の梅のあふ
当存より梅のあふ
細子身月と梅のあふ

(年三文延) す薨氏尊利足

一二五

(豐 登) 低高蝶亂撩花柳。下上蟲加交憂藥

寒 暖	天 氣	日 十 三 月 四	乙 卯	木 曜
信 發				
信 受				
要 摘				

妙き梅子此れ熱
 進之味中
 子前香身五少者天
 竹田官恒久王常宮昌子内親王
 婚大禮此火行
 軍道松島津島沖に於て沈没練場
 防松島立巖島其歸航に深中

四月

一三六

立 夏 (節 月 四 曆 陰)
五 月 (節 中 月 四 同)

五 月

年中行事

立夏の日、上旬より夏となる
 ○五月幟は一日より飾りて五日を當日とす、今は鯉のみ建つる家多し○此日には粽又は柏葉餅を喰ふ○湯屋にて菖蒲湯をたつ
 ○躑躅、牡丹、藤の花開く○立春より八十八日目を八十八夜といひ、農家にて重要な季節なり

節物時令

首夏○立夏○更衣○藤○牡丹
 ○つじ○芍薬○青籬○つりしのぶ○初稔
 ○短夜○遅櫻○葉櫻○若葉○杜鵑○松魚○新樹○鯉幟○菖蒲湯○卵の花○羽蟻○螢○螢狩○卵の花くだし○栗の花○柏餅○青梅

食品月令

黒鯉○あなご○泥鰌○鰻○いな○年魚○あび○蜆○姫百合根○茗荷の子○蓮○芋○青蕃椒○摘み菜○水芹○蠶豆○薑○白瓜○ぜんまい

○五月中行事豫記

一三七

